

学校法人神戸学院 第3次中期行動計画 中期計画(第3層) 2023年度達成度評価表

中期目標		評価	理由
教学の主体性を尊重しつつ、安定的な経営基盤を確立し、兵庫、神戸を代表する魅力ある学校となることを目指します。			
中期計画	1 法人ガバナンスの強化	B	<p>【実行計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 理事会・評議員会・監事機能の実質化・実効性の確保 2 内部質保証システムの機能的有効性の向上 3 政策等将来計画の検討 <p>寄附行為変更検討委員会を設置し、改正私立学校法への具体的な対応を進めることができたこと、法人運営に向けての各種取り組みがなされていることは評価できる。今後は附属中学校・高等学校における内部質保証が滞りなく行われるよう法人との連携を強化すること、法人として抱える新たな課題については本学独自の事情を踏まえた検討を進めることが必要であり、これらを総合的に判断した。</p>
	2 安定性と継続性を備えた財務基盤の確立	B	<p>【実行計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中長期財務計画の策定 2 学生生徒納付金以外の収入源の多様化 3 募金事業の推進 4 ㈱神戸学院パートナーズの事業推進のための法人・設置校との調整連絡 <p>中長期財務計画の策定において、2023年度の年次目標に掲げた項目については達成できている。また、適切な資産運用やふるさと納税の活用により増収につなげることができたこと、法人内業務の一層の改善を図るため事業会社である株式会社神戸学院パートナーズと協力できたことは評価できる。今後は、法人構成員の意識の向上、同窓会組織の活用など、効率的な募金活動を推進していくことが望まれることから、これらを総合的に判断した。</p>
	3 設置校の連携強化	C	<p>【実行計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連携強化による法人内業務の効果的な運営 <p>法人機能・財務検討ワーキンググループにおける最終答申について役員に対する研修など大半の項目が達成できていることは評価できる。一方で法人業務一元化に関する課題についての対応方針が検討できておらず、今後は、附属中学校・高等学校と連携の上、10年来の課題である法人内業務の一元化に対する早急な対応が必要であることから、これらを総合的に判断した。</p>
	4 多様な人材が活躍できる労働環境の整備	C	<p>【実行計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 働き方改革への対応 2 働く意欲を高めるための職員人事制度全般の再整備 3 DXの推進 4 電子決裁の導入および導入に伴う学内関連規程の見直し、改正 <p>事務組織全体の年間平均超過勤務時間数について2023年度目標である130時間を達成したこと、窓口や電話での問い合わせ対応業務を削減するため、チャットボットの導入を検討する部署に広がりが見られることは評価できる。しかし評価スキルの平準化と事務職員の採用方法に関する具体的な策は示されておらず、今後は、人事評価制度における評価者の評価スキルの平準化及び事務職員の採用方法について応募者が増えるような具体的な対策を検討することが望まれることから、これらを総合的に判断した。</p>

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る